

尼崎の市外局番はなぜ06なのか

尼崎の文明開化はいつやってきたのでしょうか？

	郵便制度	学校制度	鉄道	電灯	電話
東京	1871(明治4)	1872(明治5)	1872(明治5)	1882(明治15)	1890(明治23)
尼崎	1871(明治4)	1873(明治6)	1874(明治7)	1891(明治24)	1893(明治26)

こうしてみると、電灯以外は東京とほぼ同時期に文明開化が進んでいたことがわかります。当時の尼崎は、日本の最先端を走っていたといってもいいぐらいです。1871年（明治4）、廃藩置県によって、7月14日に尼崎県が設置されました。11月20日に尼崎県は兵庫県に合併されました。僅か4か月ほどですが、尼崎県が存在していたのです。文明開化とともに、制度も目まぐるしく変わっていったことが伺い知れます。

★郵便制度

1871年に尼崎郵便取扱所が開設されます。1893年には、尼崎郵便電信局と改称され、電信事務を開始します。

★学校制度

明治4年(1871年)に文部省が創設され、翌5年に学制が交付されると、兵庫県は各区戸長に小学校設立を命じました。これに基づいて、明治6年各村に小学校が作られました。

★鉄道事業

1874年5月11日に、大阪・神戸間の鉄道営業が開始されます。6月1日には、神崎駅（現尼崎駅）が開設されました。

★電灯

1891年、尼崎紡績で自家発電による点灯が、尼崎最初の電灯です。

★電話

1893年、尼崎紡績で本社と大阪出張所を結ぶ電話が架設されます。これが、尼崎初の電話使用です。尼崎が大阪と同じ06局なのは、このことに端を発します。

尼崎の文明開化「あさが来た」

注目すべきは、電灯や電話が何と紡績会社によって営まれていたことです。それほどに当時の紡績業は活況で、様々な分野にも進出していったことがわかります。総合力をもって自前でインフラを整備するだけでなく、学校設立などを含めて多角化経営もしていました。同社は、NHK連続テレビ小説「あさが来た」のモデルである広岡浅子の夫、信五郎が尼崎紡績の初代社長です。尼崎紡績は、尼崎の大規模工場発展の先駆として、阪神地区の工業発展の契機となりました。尼崎紡績の詳説は次号でお伝えします。